

Cinema Bravo!

創刊号

Cinema Bravo(シネマ・ブラボー)は TAMA 映画フォーラムのブラボーな会報です

特別上映会レポート

TAMA 映画フォーラムでは 4 月、5 月、6 月と 3 ヶ月連続して特別上映会を行いました。

ドキュメンタリー、アニメーション、ブラボー映画とそれぞれ大きく作品ジャンルの異なる上映会となりました。

『三池・終わらない炭鉱(やま)の物語』

去る 4 月 8 日、『三池・終わらない炭鉱(やま)の物語』の特別上映会を開催しました。

桜らが雪を降らせる中、都知事選の投票とも重なりましたが、70 名ほどのお客様にご来場いただきました。

お忙しい中ありがとうございました。



今回の上映会は、3 回の上映の他に、監督の熊谷博子氏のトークショーもあり、本映画にまつわるいろいろなお話を聞くことが出来ました。

数年にわたる大牟田市の職員の方の熱いアプローチがきっかけで始まった撮影、撮影を重ねるごとに築いていった三池の方々との信頼関係、1 時間 43 分の本編に収められなかった 110 時間のフィルムの内容、「知らなかった自分が恥だ」と言ってくださったお客様のこと、などなど。

そして、最後の一言……

「負の遺産といわれている炭鉱を『富』の財産に変えていきたい」

このコトバに、熊谷監督のこの映画に寄せる思いの全てが

凝縮されているように感じられました。

サプライズもありました。

「今日は私の誕生日なんですよ～」という監督の発言！

「おめでとうございます！！」

会場のみなさまの笑顔と拍手のうちにトークショーは終わり、

そのあと急遽サイン会も行われました。

そしてご来場くださった方から、

「この作品にかかる熊谷監督の熱意に圧倒された」

「女性の視点で撮られていて、とても共感もてた」

「記録映画に対する印象が変わった」

などたくさんの方の熱のこもったアンケートをいただきました。



今回宣伝が至らなくて、お客様が少し少ないかなという印象でしたが、遠くからいらしてくださった方もあり、また会場のみなさまの、映画をみる真剣な表情、監督のお話を聞いてこぼれる涙を見て、この作品を上映して本当によかったと思いました。

熊谷監督、関係者の皆様、そしてご協力くださったすべての方に感謝いたします。ありがとうございました (山)。

『キリクと魔女』

去る5月13日(日)、『キリクと魔女』特別上映会を開催しました。丁度、母の日だったことから、多くの親子連れのお客様をお見かけしました。実際に100名を超える多数のお客様に足を運んでいただき、本上映会は大成功だったと思います。ご来場、誠にありがとうございました。

フランス人アニメ監督ミッシェル・オスロが手がける本作は、1998年のフランス・ベルギー・ルクセンブルグの合作の作品で、世界的な評価を受けた作品です。

また、国内ではあの高畑勲監督が翻訳と演出を担当しスタジオジブリの第1回洋画アニメーション作品として2003年に公開された作品でもあります。特に、日本語吹替版では、キリク役の声優として『ハウルの動く城』の神木隆之介、魔女役には浅野温子がキャスティングされ、好演しています。



本作品の魅力は、小さな主人公キリクが『どうして魔女カラバは意地悪なの?』という台詞に代表される『なぜ? どうして?』と

いう好奇心を武器に持って果敢に行動する姿だと思います。大人が失った純粋な力を持って、強大な魔女に立ち向かう姿に大きな感動をおぼえます。そして、本作品の監督ミッシェル・オスロが生み出すアフリカをモチーフにした極端・エネルギー・繊細なアフリカ神話の世界と、セネガルポップの大御所ユッスー・ンドゥールが手がけるアフリカの伝統音楽が融合した映像は物語を大いに盛り上げ、今の日本アニメが忘れていた何かを伝えてくれる作品だと思います。

しかしながら、独特な雰囲気を持つ本作がどのように受け止められるかと上映前は心配していましたが、多くのお客様から良い作品、上映会であったとの声頂けて『ホッ』としたのが本音です。そして、『7歳の息子と初めて観る映画をずっと探していました。まさにこれだ!』という映画でした。(アンケートより抜粋)といった嬉しいメッセージに囲まれたことは、企画・運営に携わったものの"宝"として心に残りました。また、当日は丁度、"母の日"ということもあり、折り紙や塗り絵、肩たたき券のプレゼントといった遊びのコーナー、色彩豊かな『キリクと魔女』関連書籍の物販コーナーも、指を使いながら、絵本を開きながら親子の会話が弾む場を提供できたことも嬉しく思っています。



今後も皆様にお勧めできる作品を選び、紹介していきたいと思っておりますので、秋の本祭ともどもよろしく願います (田)。

ブラボー映画祭 Ver1.5

[ブラボー映画]とは...

- 1.見終わった後に思わず「ブラボー!」と叫んでしまう映画のこと。
- 2.TAMA映画フォーラムで企画されるブラボー映画祭で上映される映画のこと。

6月10日はブラボー映画祭 Ver1.5 でした。

「空いている席以外は超満員」((c)ぼんちゃん)という大盛況のもと、三部構成で行われました。司会進行はすべてTCFではおなじみの中野ダンキチさんです。

第一部では「ブラボー映画のススメ」では、ゲストに水根さん(株式会社トランスフォーマー)と山本さん(株式会社クリエイティブアクト)を迎え、たくさんのブラボーな映画が紹介されました。

第二部では『スキージャンプ・ペア』の真島理一郎監督を迎え、『スキージャンプ・ペア劇場 Road To TORINO』の上映とトークが行われました。

第三部では「シベリア超特急 上映会」といたしまして、水野晴郎監督、ぼんちゃん(西田和昭氏)をゲストに迎えてのトークショウと『シベリア超特急』の上映が行われました。

どの上映も大変盛り上がり、次回ブラボー映画祭 Ver2.0 を期待させる結果となりました。

ご来場頂いた皆様、ありがとうございました (よ)。



オススメ映画のコーナー

ここではTAMA 映画フォーラムスタッフのブラボーなオススメ映画を紹介します

『ゾディアック』

『セブン』や『ファイトクラブ』で日本にも多くのファンがいるデビッド・フィンチャー監督の新作。

今回は実在した連続殺人鬼ゾディアックの物語。『セブン』や『ファイトクラブ』がそうであったように今回もフィンチャー監督ならではの映像テクニクや映像に対するこだわりが(とくに60年代から70年代の空気感や風景)濃厚に出ていて2時間37分という長さであっという間に見せてしまう。地味ながら的確なキャスティング、音楽の選曲も言うことなく、出だしの1時間は今年の中で最も群を抜く素晴らしさだと思う。

この作品を見ないともったいない気がする傑作(舟)。

『100万ドルのホームランボール』

捕った! 盗られた! 訴えた!

MLBの顔、バリーボンズが放ったメジャー新記録73号記念ホームランボール。美しい弧を描きスタンドに吸い込まれたボールは、その後二人の男と共に数奇な運命をたどる事になる。

価値あるボールを拾った幸運? な男パトリック・ハヤシ。しかし「ボールを盗まれた!」と主張する男アレックス・ポポフが現れたことにより、事態は思わぬ方向へ。お話はボールの所有権をめぐる法廷での醜い争いへと発展する。

今作はアメリカ人がアメリカらしい題材をアメリカらしい手法で作った、そのまんまアメリカ的ドキュメンタリー映画である。それだけに馬鹿馬鹿しくも皮肉たっぷりに仕上がっている。世界を牛耳る大国アメリカがボール一つで盛り上がる。こんなに器の大きい国を私は他に知らない。

劇中、各々が利権を得るため必死に投げ合う変化球は複雑に交差する。繰り返される罵声や「欲望」丸出しの主張の数々。大の大人が法廷でボールを奪い合い、顔を引きつらせる姿は滑稽さを通り越して哀愁さえ漂っていた...

ラスト、人間の強欲さの成れの果てについた最高のオチに誰もが頬をゆるませるはず。是非、ご確認下さいね。お見逃しなく!(掛)

『転校生 - さよならあなた - 』

大林宣彦監督が25年ぶりに『転校生』をリメイクした。過去の自分に対して向き合うのは難しいし、気恥ずかしいこともあるだろう。それが評価が定まった自作に対する映画監督ならなおさらのことと思うが、本作品では主人公たちの体と心が入り替わる部分はそのままに、結末を変更して新たな物語としており、あらためていま監督が伝えたいメッセージを感じる作品となっている。

導入部から傾いたカットと饒舌なセリフが続くのに慣れたころ、主人公一美と一夫の体が入り替わるシーンがやってくる。入れ替わったあと蓮佛美沙子と森田直幸の演じる一夫と一美は、粗野すぎたり、なよなよすぎたりする場面も見受けられるものの、キラキラした新鮮な演技で好感もてる。入れ替わったからだ状況に戸惑い、もがくうちにお互いを理解し、相手を思いやる気持ちが育まれていくのが自然に感じられるのも二人の好演によるものだろう。

終盤には、ある理由によって二人は別れを決意するのだが、本作品の副題となっている「さよならあなた」というセリフは、前作以上に子供時代を終えて成長していく主人公の姿をとらえており、印象的だ(領)。

『アヒルと鴨とコインロッカー』

井坂幸太郎の同名原作小説を『ルート 225』の中村義洋監督と濱田岳、瑛太、関めぐみ出演で映画化。東京での封切りとなった恵比寿ガーデンシネマでは公開2日間の成績が同映画館の歴代の邦画作品で最高となった。映画の中の役者たちの心情に思いを馳せることができ、観た後は嘔みしめるほどに味がでる作品だ。

まず、一人暮らしを始めた不安いっぱい椎名(濱田岳)とともに、強盗を持ちかける奇妙な隣人河崎(瑛太)と、ブータン人と、謎のペット屋の女主人(大塚寧々)に振り回されてほしい。そうすれば、これ以上ないくらい役にハマっているキャストたちの掛け合いとボブ・ディランの歌声によってラストまで導いてくれる。

映画を観て、電車に乗り、飯を食べ、布団に入る。それでもこの話が頭から離れない。そんな映画に一年に何本出会えるだろうか(高)。

『キサラギ』

評判どおり、いや評判以上。

面白い! カッコいい、どんでん返しのだんでん返し...、最後まで笑っぱなし、映画館に笑い声が響き渡る...

さまざまなほめ殺しともいえる前評判を聞いて、いざ鑑賞!

なるほど、まさにその通り。舞台で見た作品、とても出来た脚本、小栗旬さんの崩れていく様が良いというのも本当にその通り。ここまで前評判が高く、評判を損なわない感想を抱く映画ってなかなかないように思います。

本当に、本がすごく良くってどんな人が書いたのかなあ? と調べてみると『ALWAYS 三丁目の夕日』の古沢良太(コサワリョウタ)さんだそうです。この二作品、通じているような通じていないような...しかし、どちらも良い作品ですよ! 早くも古沢良太さんの次の作品に興味があります。

コントライブを見ている時と同じノリで鑑賞できますよ。お笑い好きの方、またはアイドルオタクの方、もちろんそれぞれの俳優さんのファンの方、どなたの目線でも楽しめます。ぜひ、映画館で皆と一緒に笑いましょう(末)。

『天然コケッコー』

友人に誘ってもらい7月公開の映画『天然コケッコー』の試写会に行ってきました。

くらもちふさこの人気コミックを脚本家・渡辺あや×監督・山下敦弘の日本映画界注目のタッグで映画化したこの作品。

前作とは対称的な物語を山下監督がどのように描くのか楽しみにしていましたが、田舎のゆったりとした空気感を大事にし、引きの長回しや独特の間で山下監督らしくすりりと笑えるさわやかな映画になっていました。

田舎の分校が舞台ということで単純に若い人が観たい映画かと思っていましたが、会場には幅広い年齢の方がいました。

鑑賞中、たくさんの笑いが起こっていましたが大人からの笑いが特に多かったのが印象的でした。

暑い夏に楽しめる優しい映画です。

ご家族で映画館へ!(北)。



TAMA 映画フォーラムからのお知らせコーナー

今年の映画祭は 11 月 17 日(土)から 25 日(日)までの開催予定です！

現在は映画祭でどんな作品を上映しようかと企画案を練っている段階です。今年の映画祭ではどんな映画が上映されて、どんなゲストが来場するのか…。皆さん、どうぞ楽しみに！。

また、第 8 回を迎える TAMA NEW WAVE もたくさんの応募作品が集まっています。こちらもご期待下さい。

映画祭実行委員をやってみませんか

映画好きな方・イベント好きな方、映画祭が出来るまでを一緒に体験してみませんか？

映画祭でこんな企画をやりたい、イベントの運営なら興味があるなど、自分の力を思い切り試してください。随時募集しております。

なお、不安なこともあると思いますので、最初にじっくりと説明を聞いてからの参加で構いません。ご希望の方は事務局へお問い合わせ下さい。

たまシネマ隊に参加してみませんか

「一年間を通じて参加するのは難しいけど、映画祭の期間だけでも参加してみたい」

そんな方はぜひ「たまシネマ隊」に参加してみてください。

今年度のシネマ隊の説明会は 10 月に行う予定です。

支援会員制度のお願い

「実行委員やシネマ隊として参加するのは難しいけど、

TAMA 映画フォーラムを応援したい」

そんな方はぜひ「支援会員」としての応援をお願い致します。

支援金寄付 個人会員：一口 1000 円 法人(団体)会員：一口 5000 円

ご協力いただいた方は、インターネットのホームページなどでお名前を掲示します。

ただし掲示を希望されない方は、その旨を郵便振替用紙通信などでお知らせ下さい。



郵便振替番号 00160 - 5 - 541123

加入者名 TAMA 映画フォーラム実行委員会

(ご不明な点はお問い合わせ下さい)

編集後記

久しぶりの会報です。昨年から TCF では「ブラボー」が流行っています。そこで会報のタイトルも「Cinema Bravo!」になりました。ひょっとしたら、次号はタイトルが変わるかもしれませんが、ぜひご愛読の程をお願いします。

編集スタッフ:吉野治、尾島可奈子、尾口領、松田光平、舟口聡
ライター:山岸佳子、田口昇、北島祥子、末田葉子、高橋伸明、掛川幸宏
写真:田口昇

Special Thanks: 熊谷博子監督、水野晴郎監督、真島理一郎監督、ぼんちゃん、ダンキチさん、水根さん、山本さん、いつもお世話になります中山さん、そして映画を見に来てくれたお客さま

発行: TAMA 映画フォーラム実行委員会

〒206 - 0025 東京都多摩市永山 1-5 (ベルブ永山) 多摩市立永山公民館内

TAMA 映画フォーラム実行委員会

TEL080-5450-7204(直通)、042-337-6661、FAX 042-337-6003

<http://www.tamaeiga.org/> <mailto:info@tamaeiga.org>

